

令和4年 4月12日

北九州市長 北橋 健治 様

日本野鳥の会北九州支部
支部長 川崎 実 (公印省略)
北九州市戸畑区牧山新町 2-16 第一コーポ松本

公益財団法人日本野鳥の会
理事長 遠藤孝一 (公印省略)
東京都品川区西五反田 3-9-23 丸和ビル

響灘洋上風力発電施設の事業者である「ひびきウインドエナジー社」への指導・助言のお願い

北橋市長におかれましては、日頃より北九州市の環境保全にご尽力され、また私ども団体の鳥類をシンボルとする自然環境保全活動について、ご理解・ご協力をいただき感謝申し上げます。

さて、先般、私ども団体は「ひびきウインドエナジー社」に対して、響灘洋上風力発電による鳥類への影響の回避・低減策の実施を求める要望書を令和4年3月30日付で提出いたしました(別紙参照)。また、当要望書において、事業者による鳥類への影響の回避・低減策に前向きな取り組みがなされない場合は、事業を進めるべきではないことも求めました。

この度の事業者が進めている洋上風力発電事業における4エリアの対象事業実施区域と、その周辺海域及び沿岸部には、1年を通して見られる留鳥や、繁殖のために渡来する夏鳥、越冬のために渡来する冬鳥、そして移動途中に立ち寄る旅鳥など多くの鳥類が生息し、絶滅危惧種等の重要種の生息確認数は30種にも及びます。中でも、白島で集団繁殖するオオミズナギドリ(日ソ・日豪渡り鳥条約掲載種)や、島嶼地域のみが生息するカラスバト(準絶滅危惧・国指定天然記念物)、魚類を主食とするミサゴ(準絶滅危惧)、越冬するカモメ類などは、この海域の生物多様性を象徴しております。

2017年に北九州市が試行した響灘海域のゾーニングのためのスクリーニングでは、対象事業実施区域を含む一帯の海域は洋上風力発電設置困難エリアとされましたが、その根拠の一つが、希少な鳥類が生息し、北九州市の生物多様性を支える海域である事と私たちは認識しております。

しかし、この洋上風力発電施設25基を設置するという事業が、当該海域に生息する鳥類の生息に多大な影響を及ぼすことが懸念されるにもかかわらず、事業者による実効性ある対策が何ら示されておられません。このまま建設工事を進め、稼働が開始すれば、北九州市が掲げる生物多様性に汚点が残ると予想します。

よって、市長におかれましては、北九州市が公募誘致された責任において、この海域の生物多様性を守るため、鳥類に与える影響の回避・低減の必要性や重要性について事業者と協議され、実効性ある影響回避・低減策や環境保全措置を実施するよう、事業者に対して御指導、御助言いただきたく、お願いする次第です。

以上